

中
2021

国

語

始める前に左の注意事項を読みなさい。

- 始めの合図があるまで開いてはいけません。
- 問題は全部で22ページあります。
- 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 問題冊子、解答用紙のいずれにも受験番号、氏名を書きなさい。
- 質問のあるときは静かに手をあげ先生の指示を待ちなさい。
- 終わりの合図があったら、ただちに筆記用具を置きなさい。
- 問題冊子を持ち帰ってはいけません。

(第2回)

受験番号	
氏	名
	ふりがな

一 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

敷^{しき}地^ち内にプールやテニスコートがあるその公園の、東のはてには小さな雑木林が広がっている。地面の土が古墳^{かふん}のように盛りあがっているそこを、陸は「丘」と呼んでいた。

多種の草木が絡^かまりあうように生^しい茂^{しげ}る丘。重なりあつた梢^{しすえ}が天然の日傘^{がさ}となつて、ほかの場所よりも心もち涼^{すず}しく、うす暗い。何があるでもないで人間が寄りつかないそこは、昆虫たちの楽園だつた。

その丘へ分け入る前、陸は両手首にはめていた虫よけリングの片方を外し、田町に「はい」とさしだした。

「これ、しといたほうがいいよ。ヤブ蚊^かが多いから」

すっぱい果物みたいな匂いのするリングに田町が手を通すと、まるでおそろいのブレスレットでもしているみたいで、くすぐつたい。

木深い丘へ田町を先導した陸は、^①に^②わかに^③生き生きとして、おしゃべりになつた。

「昆虫のことってさ、みんなあんまり知らないけど、でも、すごいんだよ、昆虫って。知れば知るほど、すごいんだ。なんとつて、地球上の動物ぜんぶのなかで一番種類が多くて、一番繁栄^{はんえい}したのが昆虫なんだから」

「繁栄の理由はいろいろだけど、まずはやっぱり、棲^すみわけかな。昆虫って、みんながちやんと、縄張^{なわ}りをとるあわないように、ちよつとずつちがう場所で共存してるんだ。一本の木だつて、幹と、葉つぱと、落ち葉のなかと、それぞれべつの虫が棲^すんでるし。あと、食べものも虫によつてちがうから、エサもとるあわないですむ。^③人類

より^びずつと賢^さいって、お父さんが言^いつてるよ」

「体が小さいのも、繁栄した理由のひとつなんだ。体が小さいと、少しの食べものでも成長できるし、生きていけるでしょ。そのぶん減^へびる確率が低くなるってこと。たとえば車でも、大きな車はたくさんエネルギーを使う

から、すぐにガソリンがなくなっちゃう。おなじガソリンの量だったら、だんぜん、小さい車のほうが遠くまで走れるんだ」

田町とともにヤブをかきわけ、木の幹や枝にくっついたセミのぬけがらを探しまわりながら、陸はおおいに昆虫のよさを語った。まるで自分の王国にひさびさの客人を迎えた王さまみたいに、揚々と。

実際、誰かに昆虫の話をするのはひさしぶりだった。小学校まで昆虫仲間だった友達は、べつの中学へ通いはじめたとたん、陸にも虫にも興味をなくしてしまった。今のクラスで仲がいいノムさんは歴史オタクで、学校からの帰り道でも、虫よりも地蔵や祠ほらに熱い視線をそそいでいる。一度、クラスで一番ひまそうなイタルを丘へ誘ったら、イタルは陸の目の前でバッタの足を引きちぎった。即刻、丘から追放した。

その点、田町には④見こみがあつた。どんな虫も怖こおがらないし、乱暴もしない。ぬけがら探しの勘かんもいい。

「あ、またあつた。でもこれ、ちよつと色がちがう」

「あ、それはミンミンゼミのぬけがら」

「すごい。わかるんだ」

「ちよつと黄色っぽいんだよね」

「あ、そこ、変わった虫がいる」

「それはキボシカミキリ」

「キボシ？」

「黄色い星」

「ほんとだ、模様が黄色い」

くさむらや木かげで新たな昆虫を見つけたたびに、陸は短パンのポケットからメモ帳をとりだし、虫の名前を

書きとめた。

「りっくん、虫、捕まえないの？」

「うん。前は捕まえてたけど、今は観察だけ。捕まえると、すぐに死んじゃうから。たとえば、このキボシカミキリなんかさ、死んだとたんに、この黄色い模様が消えて、白くなっちゃうんだ。標本にしたって、そんなのはもうキボシカミキリじゃないからね」

田町が真剣しんけんに聞きいつているので、陸はなんだかむずむずした。クラスメイトの女子に感心されている自分がほこらしいような、照れくさいような。

「だから、集めるのはぬけがらだけにしとこうぜ」

急に態度がお兄さんっぽくなる。

妹のように思えるのは、田町が小柄こがらなせいでもあった。一年A組の男子のなかでイタルのつぎに背が低い陸よりも、田町はさらに背が低い。

「でもりっくん、こんなにぬけがらばっかり集めて、どうするの」

「どうもしないよ。とっとくだけ。お母さんに見つかって捨てられるまで」

「えー」

「去年、ランドセルのなかにぬけがらいっぱいいたためこんでたら、お母さんが見つけて、^⑤卒倒そつどうしかけてた」

七秒くらいぼかんとしてから、田町が体を折りまげた。白い帽子ぼうしの下、汗あせにぬれた顔をくしゃくしゃにし、体をよじらすようにして笑いだす。

田町が笑っている。こんなに愉快ゆかいそうに。こんなに自由な感じで。

めったにいない虫を発見したみたいなのAが、陸の胸をいっばいにする。けれど、ながめているうちにそ

れはみるみるしぼんで、逆に悲しくなってきた。

「田町」

言っちゃいけない。言わないほうがいい。頭ではわかっていた。

「なんで学校に来ないの？」

ああ、やっぱり。^⑥言つてすぐに後悔した。

一瞬にして、田町の笑いが消えた。子リスみたいにおどおどした目が、行き場をなくして緑の丘をさまよう。力をなくしたそのまなざしは、もうさつきまでの田町ではなく、^⑦一年A組の片隅にいた無口な女の子のものだった。

.....

.....

.....

.....

声をなくしたふたりの頭上から、小雨のように、セミの鳴き声が降りそそぐ。

降りそそいでも、降りそそいでも、もはや^⑧さつきまでの丘にはもどれなかった。

喉が渴いたと田町が言つて、ふたりは丘をあとにした。

プールのそばにある自動販売機で、田町は冷たいレモネードを買い、陸にもコーラをおごつてくれた。

きんぎんに冷えたペットボトルのふたをまわすと、プシュツと小さな音がして、涼やかな香りがほどばしる。

喉をすりぬける炭酸の刺激が気持ちいい。

ベンチの上でコーラをごくごく流しこむ陸の横で、田町は甘そうなレモネードをちびちびやっていた。喉なんて渴いてなかったんだろうな、と陸は横目でうかがいながら思う。陸と同様、気まずい沈黙から逃げたかっただけだろう。

——なんで学校に来ないの？

あのひと言をきっかけに、ふたりのあいだからは会話が消えた。田町は標本の虫みたいになってしまった。悪いことをしたと最初は思った陸も、時間がたつほどに、だんだん、なにが悪いのかわからなくなってきた。

何年かぶりに田町としゃべって、一緒にぬげがらを探して、いろんな昆虫を見つけて、楽しくて、田町は大声で笑って、なのに、あのことを聞かずに別れるなんて、そっちのほうがへんなんじゃないか？

太陽はとうに天頂のピークをすぎて、西へと傾きだしている。ベンチの前を歩き交う人々の多くは髪を濡らして、プール帰りであるのがひと目でわかる。陸は昆虫観察で日焼けした自分と彼らの肌を見比べて、負けるなあ、と思った。木立に守られた丘と、むきだしのプールとは、やっぱり夏の威力が違う。

「あ」

となりの田町から意識をそらすように、前を通る人々を観察していた陸は、突如、両目を見開いた。見おぼえのある顔がある。

おなじクラスの吉田くんだ。髪が濡れ、肌も焼けて雰囲気が変わっているから、すぐにはわからなかった。が、あのとぼけた顔はたしかに吉田くんだ。

「ね、あれ」

田町も見ただろうか。勢いこんでふりむいた陸は、こくりと息をのみこんだ。

田町は吉田くんを見ていなかった。陸のことさえ見ていなかった。ただ両手で包んだ黄色いペットボトルだけ

を、今にも涙があふれだしそうな目で見つめていた。

「田町？」

「あたし……あたし、うまく言えないんだけど」

「うん？」

「うまく言えないけど、なんか、居場所が、ない気がして」

「居場所？」

「あの教室。あたしの場所だけ、ない気がして」

「なんで」

「うまく言えないけど」

もどかしそうに田町がペットボトルのふたを開け、またすぐに閉める。

「うちのクラス、女子、十二人だけですよ。なんか、少なすぎて、その、隠れるところがないっていうか」

「隠れる？」

「原小のころは、どのクラスにもいたの。あたしみたいな子が、ほかにもいた。だから、かたまって、隠れてられた。でも、今は……」

せわしくなくふたを開閉する田町の手首で、虫よけリングがぶらぶらと揺れる。田町の言う意味が陸にはわからなかった。

「誰かにいじめられてるの？」

「そうじゃない。いつかは、はじまるかもしれないけど」

「なんで」

「あたし、のろいし、小さいし。A組の女子、みんな背が高いんだ。平均身長、小六のときとぜんぜんちがう」
「ぼくだって低いよ」

「でも、りつくんにはイタルがいる。自分より下がいるでしょ」

「そんなに変わんないけど……っていうか、背が低いこと、そんなに気にすることないよ」

ここぞとばかりに陸は力説した。

「自然界では、むしろ、小さいほうがいいんだから。さつきも言ったけど、昆虫が動物のなかで一番繁栄したのは、小さいからでもあるんだよ。体が小さいほうが少ない食べもので生きてけるでしょ。それって、すごく有利な条件なんだよ」

めずらしく、田町の反応は速かった。

「でもあたし、虫じゃないし」

⑩ みもふたもない応答に、陸は言葉をつまらせた。

でもあたし、虫じゃないし。

言われてみれば、その通りだ。田町は虫じゃない。田町が生きのびなきゃならないのは森でも丘でもなくて、一年A組の教室だ。

そう、田町がぼくに言ってほしいのは、昆虫のたとえ話なんかじゃない。たぶん、もつとまっすぐで、もつと強い言葉。わかっているのに、出てこなかった。一気に飲みほした炭酸で麻痺まひしたみたいに、舌がこわばって動かない。

思えば、田町の心配をしている陸自身、丘を離れた学校ではおとなしくて目立たない男子なのだった。物陰ものかげにひっそりと棲息せいそくする種族。騒さわがしい男子たちにいばられても、文句も言えずに笑っている。どうやら人間界にも

⑪ 弱肉強食^⑪がありそうだと、最近、やっとわかってきた。

こんなぼくに何が言える？

くらくらするほど青い空の下、^⑫考えるほどに自信をなくしていく。

黙りこむ陸^{だま}のとなりで、田町もやはり黙りこみ、再び標本と化しつつある。いけない、と陸はあせる。何か言わなきや。虫のこと以外の何か。田町がせつかく気持ち^⑫を打ちあけてくれたんだから。

森絵都 『クラスメイツ〈前期〉』「夏のぬけがら 陸」より

問一 ――部①「にわか」・⑤「卒倒」・⑩「みもふたもない」の意味としてもっともふさわしいものを後から

選び、それぞれ記号で答えなさい。

① にわか

ア 急に、突然 イ 少し、わずかに

ウ 非常に、とても エ 息つくひまもなく、勢いよく

⑤ 卒倒

ア 別れを悲しんで、声を出して泣き続けること

イ 思いもよらないことに、非常に驚いて転ぶこと

ウ 許せないことに、怒り狂って気を失うこと

エ 衝撃を受け、気を失って倒れること

⑩ みもふたもない

ア 真つ直ぐな言葉に、胸を打たれる

イ 優しい物言いに、心がうるおされる

ウ 厳しい言葉をそのまま鵜呑みにする

エ 表現があらさまで、言葉にゆとりがない

問二 ――部②「生き生きとして、おしゃべりになった」とありますが、この時の「陸」の様子を比喩ひゆで表現し

た一文を本文中から抜き出し、はじめと終わりの四字を答えなさい。

なお、句読点も字数にふくみます。

問三

――部③「人類よりずっと賢い」とありますが、「陸」が述べている「昆虫」の「賢さ」としてま・ち・が・つ・て・
い・る・も・の・を・次・か・ら・一・つ・選・び・、記号で答えなさい。

ア 違うえさを食べることによって、生存競争をしなくて済んでいる点。

イ 脱皮だっぴをしたりするなど、見た目を変えて、成長段階を明らかにしている点。

ウ 余計なエネルギーの消費を減らすために、体が小さく作られている点。

エ 幹や葉、落ち葉など、それぞれの昆虫がすみ分けをしている点。

問四 — 部④「見こみがあった」とは、どういうことですか。もつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 昆虫の話の話を黙って聞き、自分の指示に従って新種の昆虫を見つけ、捕まえてくれるという希望が持たということ。
- イ 自分よりも昆虫のことを詳しく知っており、自分が見たことのない昆虫を見つけてくれることが望めたということ。
- ウ 自分の昆虫に関する話を真剣に聞き、どんな虫でも恐れずに、直感を働かせて、探し当ててくれることが期待できたということ。
- エ 昆虫の話をしつかりと聞き、疑問に思えば質問もして、珍しい昆虫を確実に見つけてくれると信じてきたということ。

問五 Aに当てはまる言葉としてもつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 満足感 イ 絶望感 ウ 親近感 エ 解放感

問六 — 部⑥「言つてすぐに後悔した」のは、なぜですか。その理由を、解答らんにあわせて、本文中より十五字で抜き出して答えなさい。なお、句読点も字数にふくみます。

問七 — 部⑦ 「一年A組の片隅にいた無口な女の子」の様子をたとえた言葉を、本文中より四字で抜き出して答えなさい。

問八 — 部⑧ 「さつきまでの丘」とは、どのような場所ですか。もつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分一人で、セミのぬけがらを探すことだけに集中できる場所。

イ 「田町」と共に、のんびりとおしゃべりをしながら生物の足あとを発見できる場所。

ウ 「田町」と共に、夢中でセミのぬけがらを探することができる場所。

エ 様々な昆虫を見つけては、自分一人で真剣に観察することができる場所。

問九 — 部⑨ 「夏の威力」とは、ここでは何を表していますか。もつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 激しい雷雨

イ 強い日差し

ウ 溶けるような蒸し暑さ

エ 極端な気象の変化

問十 — 部⑪「弱肉強食」とは、どのような意味ですか。もつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 権力のある者が権力のない者を犠牲ぎせいにして、栄えること。

イ 社会は、常に変化を繰り返し、回っていくということ。

ウ 人を疑って、誰も信じることができず、不安を感じることに。

エ 決まった考えがなく、権力のある者の意見に従うこと。

問十一 — 部⑫「考えるほどに自信をなくしていく」とありますが、それはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。なお、句読点も字数にふくみます。

問十二 次の文は、「田町」が学校に来なくなった原因について、授業で話し合ったものです。明らかに、ま・ち・が・つた・内・容・を述べている生徒は誰ですか、記号で答えなさい。

生徒A…友人よりも背が低ければ、周囲のみんなに隠れて目立たずにいられるのに、小さいだけで、目立ってしまつて、いじめられるのではないかと思つてしまふのは、田町さんの思い込みの強さの表れだね。

生徒B…人数が少ないからこそ、各個人の個性が目立ってしまい、周りと違う自分が強調されるような気がして、周囲からうとまれていてのではないかと、不安や恐怖を感じているのではないかな。

生徒C…田町さんは、大勢の中の一人という目立たない立場でいることに安心感を覚えていたので、少数だと周囲にまぎれることができず、自分が注目されてしまうように思つて、常に疑心暗鬼ぎになつてしまつているんだと思う。

生徒D…少数だからこそ、のろかつたり、背が低かつたりする、自分と同じような個性を持つ友達がおらず、周囲と自分との違いちがに気づかれた時、それがいじめにつながるのではないかと心配して、落ち込んでしまつていのではないかな。

二 次にあげたA・Bは、「石」を題材として用いている詩です。

これらを読んで、後の問いに答えなさい。

A いしつころ いしつころ

じめんのうえの いしつころ

いつからそこに いるんだい

いしつころ いしつころ

ひとにふまれた いしつころ

ちよつとおこつて いるみたい

いしつころ いしつころ

あめにうたれて いしつころ

いつもどちがう あおいいろ

いしつころ いしつころ

おなかのしたは あったかい

むしのあかちゃん うまれてる

いしつころ いしつころ
そらを見あげる いしつころ
なまえをつけて あげようか

(谷川俊太郎「いしつころ」)

B

きのうは子供を
ころばせて
きようはお馬を
つまづかす。
あしたは誰が
とおるやら。

田舎のみちの
石ころは
赤い夕日に
けろりかん。

(金子みすず「石ころ」)

問一 Aの詩の形式を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 口語定型詩
- イ 口語自由詩
- ウ 文語定型詩
- エ 文語自由詩

問二 Aの詩に用いられている表現上の特徴は何ですか。その説明としてふさわしいものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 倒置法 (言葉の順序をあえて入れかえること)
- イ 擬態語 (物の様子を音声にたとえて表すこと)
- ウ 擬人法 (人ではないものを人にたとえること)
- エ 擬音語 (実際の音声を言葉でまねて表すこと)
- オ 反復法 (同じ意味の言葉をくり返し使うこと)

問三 Bの詩の説明としてもっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 石の様子は、時間が経ってもまるで変化することがない一方で、周囲の情景は、時間と共に、だんだんと変化していく様子が描かれている。

イ 石はその場所に存在していることで、周囲に対して様々な影響を与えている一方で、周囲の環境に興味を持っていない様子が描かれている。

ウ 石が、現在に限らず、将来にわたって存在できる一方で、自然環境は、存在できる時間や場所が限られ、永続できない様子が描かれている。

エ 石が人や動物に対して関心を持ち、悪い影響を与えている一方で、自然の美しさによって、石自身も影響を受けている様子が描かれている。

三 次の語句や文法に関する問いに答えなさい。

問一 漢字のしりとりをしています。次の ・ に入る漢字を、それぞれ答えなさい。

(同じ漢字でも、熟語によって読み方が変わる場合があります。)

人気 ↓ 氣 ↓ 付 ↓ 付録 ↓ 録 ↓ 楽 ↓ 楽器

問二 次の先生の質問に対する応答として、文法上正しい敬語が使われているものを一つ選び、記号で答えなさい。

先生「今度の卒業を祝う会に、保護者の方は出席されますか。」

生徒 A 私は、母から何もつかってありません。

生徒 B 父は、出席するとおっしゃっていました。

生徒 C 祖父も、参加したいと申しておりました。

生徒 D 祖母は、参加されないと申していました。

問三 次の中で、() 内に、他の文とは異なる数字が入るものがあります。

A それを一つ選び記号で答え、B その() 内に入る数字も答えなさい。

ア 「早起きは() 文の得」という考えを大切にして、生活している。

イ () 日坊主に終わってしまい、冬の朝のマラソンは続かなかった。

ウ () の足を踏むような仕事でも、自分から進んで行っていきたい。

エ 試験の勉強は、石の上にも() 年の気持ちでがんばってください。

問四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

みなさんは、「①虎に翼」ということわざを知っていますか。なかなか聞き慣れないことわざですが、中国で伝えられている話がもとになったことわざです。「虎に角」や、日本で有名な「鬼に金棒」ということわざとも同じ意味で使われます。

みなさんはこれから、知っている言葉の新しい意味に出会ったり、未知の言葉に出会ったりするかもしれません。そうした時でも、どうか恐れがらなくてくださいね。その文そのものをよく読んで、前後の言葉を確認すれば、答えはきつと見つかるでしょう。

春からは、②新しい環境の中で、新たな気持ちで、ぜひ頑張ってくださいね。

I 部①「虎に翼」ということわざは、どのような意味であると考えられますか。もっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 貴重なものでも、価値のわからないものには、意味をなさないこと。

イ 強いものが、扱いきれないものを与えられて、反対に弱くなること。
ウ 価値のわからないものには、かえって悪い効果を与えてしまうこと。
エ もともと強いものが、さらに力をつけることで、より強くなること。

II — 部②「新しい環境の中で、新たな気持ちで」のように、ある事をきっかけとして、新たな気持ちや態度で事に臨むことを「心（一）（一）（一）」と言います。（一）にそれぞれ漢字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

III 次のA～Dのことわざとほぼ同じ意味をもつことわざを、後の「ことわざ」の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。（ただし、同じ記号は一度しか使えません。）

- A 二兎^とを追う者一兎をも得ず
- B のれんに腕押し
- C 上手の手から水がもれる
- D 旅の恥はかき捨て

【いっしょわね】

- | | | | |
|---|----------------------|---|----------------------|
| ア | 豆腐にかすがい | イ | 月とすつぽん |
| ウ | 百聞は一見にしかず | エ | 弱り目にたたり目 |
| オ | 泣きつ面に蜂 ^{はち} | カ | 虻 ^{あぶ} 蜂取らず |
| キ | 弘法にも筆の誤り | ク | あとは野となれ山となれ |

四

—部のカタカナを、それぞれ漢字に直して答えなさい。

- ①分厚いヒヤツカ事典でくわしく調べる。
- ②暖かいセーターをアんで友人におくる。
- ③ウイルス感染のヨボウ方法を提案する。
- ④ごみのブンベツを守つてものを捨てる。
- ⑤子どもの成長のカテイを記録していく。

五

—部の漢字の読みを、それぞれ答えなさい。

- ①資格を取|得|して夢を叶えられた。
- ②勇|ましい|声をあげて列が進んだ。
- ③みんなで神社の境|内|に集合する。
- ④体調を崩|して|しまい寒気がする。
- ⑤子どもが健|やか|に成長した記録。

